

書陵部紀要

第 5 号

応神・仁徳・履中三天皇陵の規模と营造……………	梅 原 末 治…	(1)
戸籍より見た大宝前後の継嗣法 ……………	今 江 広 道…	(16)
——特に庶人の嫡子について——		
北 野 信 仰 と 連 歌 ……………	伊 地 知 鐵 男…	(32)
正倉院御物金工品の調査報告		
正倉院御物「鏡」の製作技術の研究……………	内 藤 春 治…	(43)
正倉院御物金工品の技術的研究……………	鈴 木 信 一…	(54)
——白銅鏡の製作工程に就いて——		
正倉院御物研究報告書……………	山 脇 洋 二…	(60)
正倉院御物金工品の彫金的調査……………	後 藤 年 彦…	(70)
正倉院御物の技術的調査報告書……………	三 井 安 蘇 夫…	(77)
——主として鍛金（鋳起・打出）について——		
正 倉 院 年 報 ……………		(81)
彙 報 ……………		(86)

昭和 30 年 3 月

宮 内 廳 書 陵 部

正倉院御物金工品の調査報告

正倉院御物「鏡」の製作技術の研究……………内藤春治……………(43)

正倉院金工品の技術的研究……………鈴木信一……………(54)

——白銅鏡の製作工程に就いて——

正倉院御物研究報告書……………山脇洋二……………(60)

正倉院御物金石品の彫金的調査……………後藤年彦……………(70)

正倉院御物の技術的調査報告書……………三井安蘇夫……………(77)

——主として銀金（鍍起・打出）について——

本調査報告は昭和二十五年より同二十七年に至る三年間、東京芸術大学の教官諸氏により、「正倉院御物」金工品中の鑑鏡、銀壺、金銀花盤、金銅水瓶、銀薫炉、銅薫炉、金銅幡、金銅雲花形裁文、鈴等を鍍金、彫金、銀金の各専門的立場において調査した報告書である。

この調査は第一年度及び第二年度は文部省科学研究費を得て実施されたが、第三年度は宮内庁の依頼の形で継続したものである。

第一号 目次 (昭和二十六年三月発行)

皇后中宮問題の解決	芝 葛 盛	(1)
昭和二十三年度正倉院楽器調査概報	芝 長 屋 謙 三	(10)
図書寮本類聚名義抄出典索引	橋 本 不 美 男	(27)
書陵部官制の変遷		(51)
蔵書史と新収書解説		(55)
貴重図書の翻刻と出版		(60)
疎開から展示会へ		(62)
編修課事業概要		(69)
正倉院年報		(73)

第二号 目次 (昭和二十七年三月発行)

国忌の廃置について	中 村 一 郎	(1)
律令制官人社会構成の一考察	野 村 忠 夫	(15)
—— 外位制の本質と機能を中心に ——		
昭和二十五年正倉院楽器調査概報	滝 芝 祐 泰・長 屋 謙 三 遼 一・岸 辺 成 雄	(28)
図書関係事業概要		(54)
編修課事業概況		(58)
正倉院年報		(59)
附 録		
正倉院古裂銘文集成(一)	松 島 順 正	(1)

第三号 目次 (昭和二十八年三月発行)

和歌・連歌・俳諧	伊 地 知 鉄 男	(1)
—— 宗祇・兼載の俳諧百韻その他を紹介して ——		
—— 俳諧連歌抄の成立に及ぶ ——		
歌合変移の一モメント	橋 本 不 美 男	(18)
—— 康和期国信卿家歌合と俊頼と基俊と ——		
太政官厨家について	橋 本 義 彦	(38)
広橋守光日記について	菊 地 康 明	(49)
楽翁公松平定信の蒐集に係はる大般若經	大 窪 太 朗	(56)
昭和二十七年正倉院楽器調査概報	滝 芝 祐 泰・長 屋 謙 三 遼 一・岸 辺 成 雄	(74)
正倉院年報		(85)
附 録		
正倉院古裂銘文集成(結)	松 島 順 正	(18)

第四号 目次 (昭和二十九年三月発行)

郡司制の一考察	後 藤 四 郎	(1)
—— 任用規定を中心として ——		
律令制官人構成についての序章	野 村 忠 夫	(18)
—— 装演生奏常忌寸秋庭の場合 ——		
院政政権の一考察	橋 本 義 彦	(36)
貞享度大嘗会の再興について	武 部 敏 夫	(54)
正倉院密陀絵調査報告	北 村 大 通・山 崎 一 雄・木 村 康 一 上 村 六 郎・亀 田 孜	(68)
彙 報		(86)
正倉院年報		(89)